

4. 主語が研究・結果・要因・傾向のどれかであることを確認し、その主語に合う動詞を選ぶ
5. 直訳の痕跡が残っていないか、COL と REG の両方で再確認する

5 5. 判別と注意点

5.1 重点を置く

- focus on が最頻の基本形
- 口語的な pay attention to は説明文では弱く見えやすい

5.2 役割を果たす

- play a role in が定型
- have an effect on と近いが、影響より機能参加を言いたいときに向く

5.3 関連と因果

- be associated with は相関や関係を述べる
- 原因まで言い切るなら、別の表現を選ぶ必要がある

5.4 示唆と証拠

- have implications for は影響範囲や含意を述べる
- provide evidence for は主張を裏付ける証拠を述べる
- prove は断定が強すぎる場合がある

6 6. 落とし穴

- 日本語の動詞を 1 語ずつ置換する：do an important role、give suggestion to society のような不自然な形になりやすい
- 会話表現をそのまま説明文へ持ち込む：COL だけでなく REG も同時に崩れる
- 相関と因果を混同する：be associated with を因果表現のように使うと論理が強くなりすぎる

7 7. 関連リンク

→ 講義 コロケーション基礎 [lecture](#) [english](#) [collocation](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/collocation/>コロケーション基礎-講義/

→ 講義 レジスターの基本 [lecture](#) [english](#) [register](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/register/>レジスターの基本-講義/

→ 定石集 誤りタグ体系 [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/>誤りタグ体系-定石集/